

2014年6月20日

各位

会社名 株式会社キャンパス  
代表者名 代表取締役社長 河邊 拓己  
(コード番号: 4575 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役最高財務責任者兼管理部長  
加登住 眞 (電話 055-954-3666)

### 通期業績予想修正に関するお知らせ

当社は、2014年3月17日に公表した2014年6月期(2013年7月1日～2014年6月30日)の業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

#### 1. 2014年6月期(2013年7月1日～2014年6月30日)業績予想数値の修正

	事業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想	0 ～1,000	△489 ～510	△489 ～510	△387 ～612	△104.40 ～165.23
今回修正予想	0	△484	△479	△375	△101.36
《参考》前期実績(2013年6月期)	0	△651	△641	△643	△198.81

(注) 増減額・増減率については、レンジから特定の数値への予想値変更のため、記載を省略しています。

#### 2. 修正の理由

当社は、2014年6月期の業績予想については、前回公表値をレンジ形式で開示しておりましたが、このたび新たに特定数値による予想値を算出しました。なお、この新予想値は、前回公表した業績予想のレンジの範囲内です。

前回公表値においては、提携活動の不確実性を考慮し、新規提携パートナーを獲得して受取る可能性のある事業収益をレンジで表示しておりましたが、現在の提携活動状況から2014年6月期中に新規契約締結に至る可能性がなくなったと判断したため、新予想値はその下限であるゼロに修正します。

なお、損益については、前回公表値の下限値を基準とした微修正にとどまっております。

#### 《提携活動の経緯および現状について》

当社は、開発中の抗癌剤候補化合物 CBP501 にかかる武田薬品工業株式会社との共同事業化契約を2010年6月に解消して以来、提携パートナーとなる製薬企業等との連携模索(パートナーリング活動)を実施しつつ、単独でCBP501 臨床開発を進めています。

この間、当社は、2012年6月に開催された ASCO (米国臨床腫瘍学会) において悪性胸膜中皮腫を対象とする臨床第2相試験の速報結果(主要評価項目達成)を発表し、続いて2013年4月には非小細胞肺癌に対する臨床第2相試験速報結果も公表しました。

非小細胞肺癌に対する臨床第2相試験の結果は、主要評価項目「無増悪生存期間」(PFS)は達成しなかったものの、被験者のうち特定の患者集団を対象とした解析(サブグループ解析)を実施した結果、重要な副次的評価項目である「全生存期間」(OS)において、CBP501 の顕著な効果が示唆されました。

とはいえ、製薬企業など提携パートナー候補企業とのディスカッションにおいては、一般にサブグループ解析は偶然の産物に我田引水な非合理的解釈を加えたものであることが少なくないため、CBP501 の可能

性を説明する材料としては今ひとつ説得力不足であったことは否めません。

その後、当社はこれらの試験データの詳細な解析と追加的研究を実施し、上記のようなサブグループ解析結果が生じる原因を科学的に矛盾なく説明し得る仮説の樹立と、それを支持するデータの獲得に成功しました。現在も引き続きその検証作業を行っています。

これは、上記のサブグループ解析において示された CBP501 の顕著な効果が偶然生じたのではないことを強く示唆し、CBP501 の薬剤としての可能性を説明する説得力を大きく補強するものであると当社は考えています。

当社はまた、このデータを踏まえて次相臨床試験を設計することにより、CBP501 開発の成功確率を大きく高めることができると考えています。

実際に、このデータの獲得と相まって、製薬企業等との本格的なディスカッションの前提となる守秘義務契約の締結数、実際の接触の数などは引き続き継続的に増加しており、討論の内容もさらに踏み込んだものとなっているところです。

しかしながら、2014 年 6 月期中に新規契約締結に至る可能性は本日現在においてなくなったと判断せざるを得ず、本適時開示に至ったものです。

当社は引き続き、早期に新規提携契約を獲得できるよう努める所存です。

以 上